

国際版画
美術館

☎726・2771

フェリシアン・ロップス展

7月27日(土)~9月8日(日)

まなざしは、悪魔か神か・・・

休館日 月曜日
観覧時間

火・金曜日 午前10時~午後5時
(入場は午後4時30分まで)
土・日曜日 午前10時~午後5時30分
(入場は午後5時まで)

観覧料

一般 600円
大・高校生 400円
65歳以上 300円
小・中学生 無料
7月27日(展覧会初日)は入場無料です。

学芸員による
ギャラリー・トーク

日時 8月11日(日)、25日(日)
(午後2時から)

同時開催

常設展示「版画いろいろ2 小特集 シェイクスピアの世界」

フェリシアン・ロップス(1833-1898)は、ベルギーの画家・版画家です。とりわけ官能的で悪魔的な主題に特異な才能を発揮しています。それらの作品群は、当初から常にスキャンダラスな話題の的となりました。

ベルギーの南部、ナミュールで生まれたロップスは、若くして莫大な財産を受け継ぎました。それを資金に、風刺雑誌「アイレンス・ピーヘル」を創刊、自らも卓抜なリトグラフを寄稿します。晩年のシャルル・ボードレールとの出会いを経て、当時のフランスの文学者から高く才能を評価されることになりました。

パリの街角にたたずむ娼婦の姿、悪魔やエロスを主題とした作品、聖職者を揶揄(やゆ)する作品を

ロップスは数多く制作しました。社会の暗部をえぐり出し、白日のもとにさらそうとした過激ともいえる制作の背景にあったものは、道徳や宗教を振りかざし、「神」の名のもとに偽善者の生活に甘んじる当時の聖職者たちやブルジョワたちへの反逆でした。



「漂着物」1866年 フェリシアン・ロップス美術館、ナミュール

悪魔的な欲望もまた、人間に生来そなわった根源的なものではないのか



「アブサンに溺れる女」1876年ごろ フェリシアン・ロップス美術館、ナミュール



「扇子と操り人形を持った貴婦人」1873年 フェリシアン・ロップス美術館、ナミュール



「ヴィーナスとキューピッド(鼻をかんでもらっているアモル)」1878-81年ごろ フェリシアン・ロップス美術館、ナミュール(寄託)